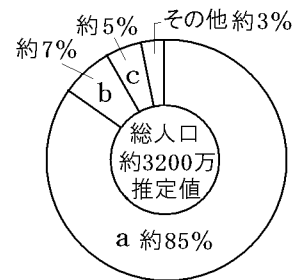


第 10 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.02
	江戸 1			

[問題 1]

資料をみて、次の各問いに答えよ。

- (1) グラフ中の a～c にあてはまる身分を書け。
- (2) グラフ中の a の身分の人々のうち、農地を持ち年貢をおさめる者を何というか。
- (3) グラフのような身分制度は、豊臣秀吉が行った武士と百姓を区別する政策がもととなっている。この政策を何というか。



[解答欄]

(1)a 百姓	b 武士	c 町人	(2) 本百姓
(3) 兵農分離			

[問題 2]

次の各問いに答えよ。

- (1) 江戸時代の身分制度を漢字 4 字で書け。
- (2) 百姓は全人口のどれくらいの割合をしめていたか。次から選べ。
[45% 65% 85%]
- (3) 百姓の中にも、①土地を持つ者と、②持たない者の区別があった。それぞれ何というか。
- (4) 次の文の()にあてはまる語句を答えよ。
有力な百姓は、()・組頭・百姓代などの村役人になって、年貢の徴収などをおこなった。
- (5) 百姓の不満をそらすために、きびしく差別された身分の人々を何というか。
- (6) (5)の人たちがしていた仕事を次から選べ。
[皮革業 織物業 酒造業]

[解答欄]

(1) 士農工商	(2) 85%	(3)①本百姓	②水のみ百姓
(4) 庄屋(名主)	(5) えた・ひにん	(6) 皮革業	

[問題 3]

文中の①～⑤にあてはまることばを書け。ただし、⑤は漢字 4 字で書け。

江戸時代、幕府は村を仲立ちとして百姓を支配した。そのなかでも村の有力農民を(①)(庄屋)、(②)、(③)という村役人にし、年貢の納入に連帯責任をもたすために 5～6 人組を 1 組にした(④)の制度をつくった。幕府は身支配をいっそう強め、武士がもっとも尊く百姓がそれにつぐとする(⑤)の身分思想を重んじた。

[解答欄]

①名主	②組頭	③百姓代	④五人組	⑤士農工商
-----	-----	------	------	-------

[解答] (②と③は順不同)

[問題 4]

資料を見て、各問いに答えよ。

- 一 名主・組頭を真の親と思うこと。
- 一 朝には早起きして草を刈り、昼は田畑の耕作をし、晩には縄をなつて俵を編み、それぞれの仕事におこたひなくはげむこと。
- 一 酒や茶を買って飲んではならない。

(1) 上の法令を何というか。

(2) 上の法令は幕府が安定してあるものを得るために出された。そのあるものを漢字 2 字で答えよ。

[解答欄]

(1) 慶安の御触書	(2) 年貢
------------	--------

[解説]

農民統制:年貢を確実に納めさせるため
(四公六民, 五公五民)

慶安の御触書

五人組:年貢・犯罪防止について連帯責任

[慶安の御触書]

- 一 朝は早く起きて草を刈り、昼は田畑の耕作をし、晩には縄をない、俵をあみ、それぞれの仕事に気をぬくことなくはげむこと。
- 一 酒や茶を買って飲まないようにせよ。
- 一 百姓は雑穀を食べ、米を多く食いつぶさぬようにせよ。
- 一 百姓の衣類は、麻と木綿に限る。

武士の生活は百姓が納める年貢でささえられていた。幕府や藩は、四公六民(収穫高の 4 割が年貢で、6 割が百姓の手元に残る)や五公五民という重い年貢を取り立て、財政をまかした。

百姓から年貢を安定して取るために、土地の売買を禁止したり、米以外の作物の栽培を制限したりするなど、さまざまな規制をくわえた。

1649 年に慶安の御触書を出して、「朝には早起きして草を刈り、昼は田畑の耕作をし、…」 「酒や茶を買って飲んではならない」など百姓の生活のあらゆる面にわたって細かく規制した。

また、五人組の制度をつくり、五戸前後を一組として年貢の納入や犯罪の防止などについて百姓に連帯責任を負わせた。

[問題 5]

次の各問いに答えよ。

- (1) 幕府から貿易の許可状をもらった船が、東南アジア各地に行った貿易を何とよぶか。
- (2) (1)の貿易で、幕府が出した海外渡航の許可証を何というか。
- (3) (1)の貿易を始めた将軍は誰か。
- (4) (1)の貿易により、東南アジア各地にできた町を何というか。

[解答欄]

(1) 朱印船貿易	(2) 朱印状	(3) 徳川家康	(4) 日本町
-----------	---------	----------	---------

[解説]

徳川家康：朱印状 → 朱印船貿易 東南アジアに 日本町 キリスト教徒の増加 ↓ 1612年 幕領に禁教令 1616年 ヨーロッパ船の来航を長崎と平戸に限定 1635年 日本人の海外渡航と帰国を禁止	(朱印状)  自日本利 東京商船也 右 慶長十二年九月十日
--	--

徳川家康は、最初、大名や大商人に海外渡航を許可する朱印状をあたえて貿易をすすめた。これを朱印船貿易という。西国の大名や京都、堺、長崎などの商人は、朱印船を派遣して貿易を行った。その結果、東南アジア各地に日本人が進出し、日本町がつくられた。タイのアユタヤでこの町のかしらとなった山田長政が有名である。

徳川家康は、最初は海外貿易の利益のために、キリスト教については黙認していた。

しかし、この間に全国にキリスト教の信者が増加していった。

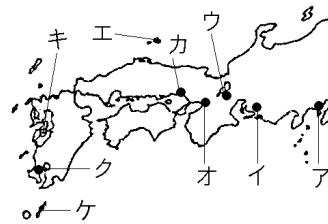
家康は三河の時代に一向一揆に苦しめられた経験からキリスト教徒が増えて大きな勢力になることを恐れ、キリスト教を禁止し、宣教師を海外追放にした。

また、西国の大名が貿易によって経済力を増すのを恐れ、1616年にはヨーロッパ船の来航を長崎と平戸に限定して貿易を独占した。

[問題 6]

1637 年、キリスト教徒農民の一揆が起こった。

- (1) この一揆は何とよばれているか。
- (2) この一揆について説明している文を、下のア～エから 1 つ選んで記号で答えよ。
- ア 信仰で結びついた武士や農民たちが、守護大名を倒した。
- イ 幕府に借金の帳消しを求めて起こした。
- ウ シャクシャインを指導者として蜂起したが、しずめられた。
- エ 信仰の迫害や重税に苦しむ百姓たちが蜂起した。
- (3) この一揆のおこった場所を、地図のア～ケから選んで答えよ。



- (4) 右の絵は、キリスト教徒でないことを人々に証明をさせている様子である。これを何というか。

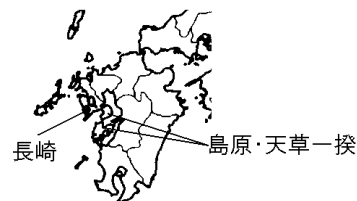


[解答欄]

(1) 島原・天草一揆	(2) エ	(3) キ	(4) 絵踏
-------------	-------	-------	--------

[解説]

1637年	島原・天草一揆
→	絵踏(キリスト教徒の発見), 宗門改帳
↓	
1639年	鎖国 徳川家光, ポルトガル人の来航禁止
オランダ	→長崎の出島, 清も長崎



1637 年、島原(長崎県)・天草(熊本県)地方のキリスト教徒の農民約 3 万 7 千人が、無理な年貢の取り立てとキリスト教徒へのきびしい取り締まりに反対して **島原・天草一揆** を起こした(指導者は **天草四郎**)。

幕府は 12 万の大軍を送ってようやく一揆をしずめた。(人むざんなり(1637)島原・天草一揆)

島原・天草一揆の後、幕府は、キリスト教徒の発見のために **絵踏** を行い、役人の前でイエスの像などを踏ませてキリスト教徒でないことを証明させた。

また、幕府は、人々を **宗門改帳** に記して仏教徒であることを寺院に保証させた。

当時、海外進出を行っていたヨーロッパ国の中で、ポルトガルとスペインの旧教(カトリック)国は、貿易とともにキリスト教の布教を行っていた。(これらの国は、まず宣教師を送りこんで信者を増やし、反乱をおこさせて、やがてそこを植民地としてしまうということもやっていた) すでに 1624 年にスペイン船の来航を禁止していたが、島原・天草一揆後の 1639 年、三代将軍 **徳川家光** は **ポルトガル人の来航を禁止** した。

当時日本と貿易を行っていた **オランダ** は、キリスト教の新教(プロテスタント)の国で、布教は行わず、貿易のみを行っていたので、引き続き貿易を認めることとしたが、貿易を行う場所を **長崎の出島** に限定した。

また、**清**(17 世紀の初め中国では明が滅んで清が建国した)の商人も長崎でのみ貿易を認められた。

こうして**鎖国**が完成した。

(一路鎖国(1639))

鎖国を行った理由の一つは**キリスト教が広がるのを防ぐため**であった。

もう一つの理由は、**西国の大名が貿易によって経済力を増すのを恐れ**、貿易を行う場所を幕領である長崎に限定して、貿易を独占するためであった。